

## 実践事例③ 渋谷区立笹塚小学校

### 1 取組・活動名

「ささリンピック・コーディネーショントレーニングの充実・おもてなしの心の育成」

### 2 取組・活動のねらい

- 様々な運動を経験し、運動の楽しさを味わうことで運動の日常化を図ることができるように、毎週火曜日の中休みに「ささリンピック」と称して、全校児童が一斉に運動に取り組む体育的活動を始める。
- 体育授業の改善を目指し、コーディネーショントレーニングを中心とした校内実技研修の充実、学習形態・場の工夫や掲示物・学習カードを活用した体育学習を実施する。
- 「表情」「態度」「身だしなみ」「言葉遣い」「挨拶」のマナーの基本5原則をしっかり意識できるように生活指導目標を設定したり、「分離礼」を日常生活に取り入れたりして「おもてなしの心」の育成を目指す。

### 3 教育課程上の位置付け

「体育、道徳、業間体育」

### 4 実施上の工夫

- ・ ささリンピックにおいては、本校の苦手傾向にある新体力テストの種目の向上につながる運動を扱う。1つの運動に偏ることなく、バランスよく行うために、定期的に内容の精査をし、扱う運動を変更していく。また、「楽しく運動する」ことが一番のねらいであるので、必要以上の専門的な指導は行わない。
- ・ コーディネーショントレーニングのみで単元構成するのではなく、全ての領域において補強運動として扱い、毎時間の積み重ねで児童の体力向上を目指す。また、扱うコーディネーショントレーニングの内容については、学習する領域に関連する運動を選択する。
- ・ 講師監修のマナーに関するDVDを活用した学習を行う。また、講師招へい、生活指導目標の項目の精選、全校朝会で全児童による分離礼など実践の機会を設定する。

## 5 本取組・活動の内容



- ・ 毎週火曜日の中休みに全校児童で3種類の運動（1～3年生は立ち幅跳び、全力走、ラダートレーニング、4～6年生は走り幅跳び、5秒間走、ラダートレーニング）に取り組む「ささりんピック」を行った。
- ・ 体育の学習で毎時間、コーディネーショントレーニングを行う時間を設定し、自分の体を意図をもって操作する経験を積み重ねる。
- ・ これらの2つの活動を、年間を通して行うことで児童の運動の日常化・体力の向上を目指した。



- ・ 元国際線客室乗務員のマナー講師を招へいし、「おもてなしの心」についての学習を行った。
- ・ また、学校行事である挨拶キャンペーン、全校朝会での分離礼など、学んだことを実践する機会を設定した。
- ・ そのようにすることで、「おもてなしの心」の実践力を身に付けることができた。

## 6 成果

- ・ 「ささりんピック」を行い、（取組開始から3年目）運動の日常化を目指したことで多くの児童が外に出て遊ぶようになり、遊ぶ内容も多様になった。また、新体力テストの結果も第4学年を除いて全ての学年において渋谷区・東京都平均の体力合計点を上回った。
- ・ コーディネーショントレーニング、マット運動、跳び箱運動などの校内実技研修の開催や、体育授業に関する学習資料の配布、体育授業におけるOJTを行うことで、学習過程や運動量の確保に工夫が見られるようになり、指導力の底上げを図ることができた。
- ・ マナー講師による「おもてなしの心」に関する学習を通して、児童は挨拶の意義を理解したうえで挨拶をするようになり、校内で分離礼や立ち止まって挨拶できる児童が増えてきた。また、マナーの基本5原則と生活指導目標を関連付けることで、子供たちの「相手意識」が高まり、以前よりも増して落ち着いて学校生活を送ることができるようになった。